

平成29年度 事業報告書

大慈智音園ショートステイ

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、身体的な援助を行う。又、居宅における生活と利用時の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する。

2. <最終目標>

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. <部門別重点目標>

<ケア部門>

①ご自宅での生活リズムに合わせたサービスの提供

定期利用者の24時間シートを作成したことで、スタッフが同じサービスを提供できたと評価する。リピート利用者とは、日常のサービス提供の中からアセスメントを行い、スタッフで共有できるように24時間シートへの記載、タイムテーブルに盛り込んでいくことができた。

②レクリエーション活動の充実

智音園ショートステイのアピールポイントとして今年度もレクリエーション活動には力を入れた。毎日のレクリエーションに加え、個別のレクリエーション等も検討し実行することで、評判も良く、リピート利用者も増えた。

③遠藤メソッドへの取り組み

大慈智音園同様

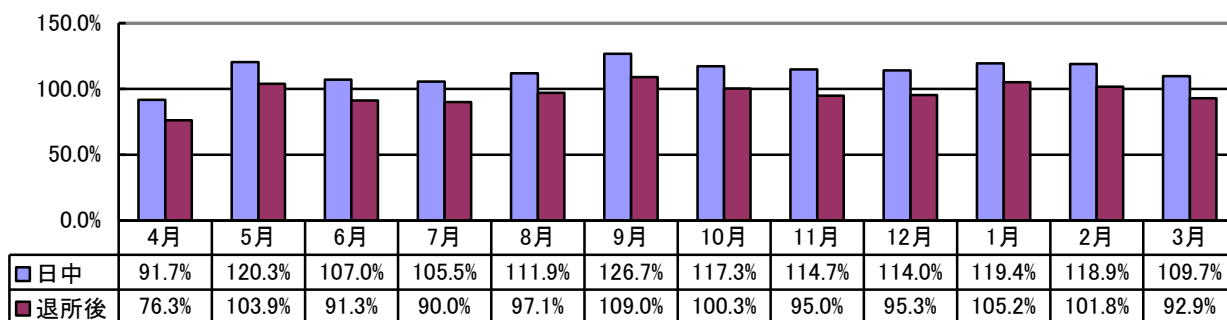
4. <経営部門>

①充足率の向上(目標：充足率95%)

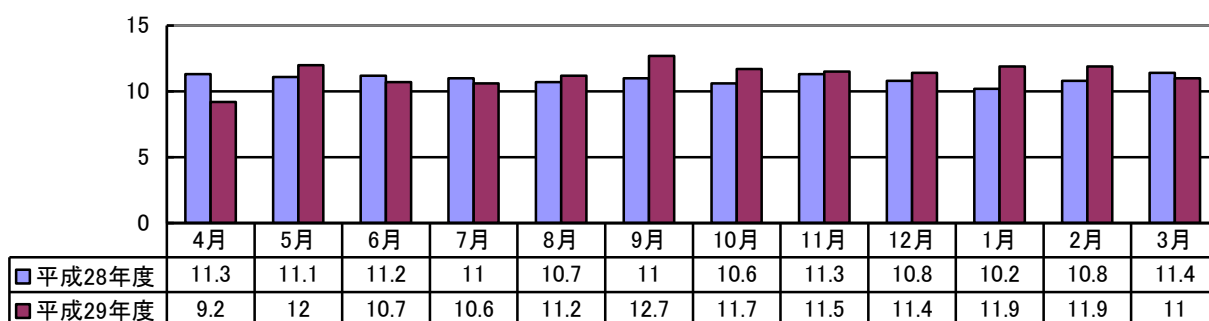
ベッドの空きが出れば、近隣の居宅やあんしんすこやかセンターに空き情報を提供した。また特養との連携を密に取り、空床利用をすることで、目標を達成することができた。緊急ショートを受け入れや定期利用者の予定外利用に対応し、家族の介護負担軽減に努めた。智音新聞を毎月発行し契約時、面接時等にお渡しすることができた。モニタリングの活用はできず、次年度の課題である。

●充足率→日中109.9%、退所後96.5%

(前年平均 日中105.1%、退所後93.6%)



●平均人数→日中11.3人
(前年度平均 日中11.0人)



●介護度別年齢別等人数表 (平成29年3月31日時点での実人数)

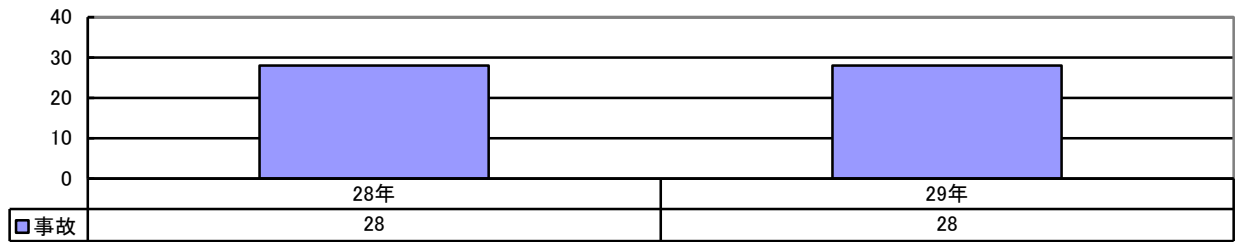
要介護度	平成28年度				平成29年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	1	1	0	92歳	0	0	0	
支援2	2	0	2	78.8歳	5	1	4	85.6歳
1	7	3	4	86.1歳	15	9	6	87.6歳
2	20	6	14	83.9歳	30	8	22	86.6歳
3	17	5	12	85.4歳	22	6	16	86.5歳
4	19	4	15	86.1歳	22	7	15	85.5歳
5	13	6	7	80.0歳	21	11	10	76.6歳
合計	79	25	54		115	42	73	
平均介護度		3.0	3.0	3.0		3.0	2.8	2.9
平均年齢		81歳	86.9歳	83.5歳		79.9歳	87.3歳	84.7歳
最高年齢		95歳	100歳			94歳	100歳	
最低年齢		59歳	49歳			54歳	55歳	

5. 《行事等の実施内容・反省点》
 6. 《会議の実施内容・反省点》
 7. 《職員会議・OFF-JT》
 8. 《リスクマネジメント報告》
- } 大慈智音園同様

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

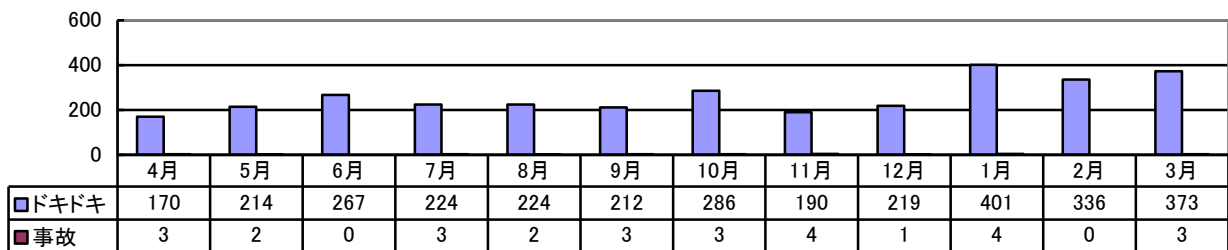
①報告件数

年度別事故件数



報告件数	平成28年度			平成29年度			
	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	3,222 件	28 件	3,194 件		3,144 件	28 件	3,116 件

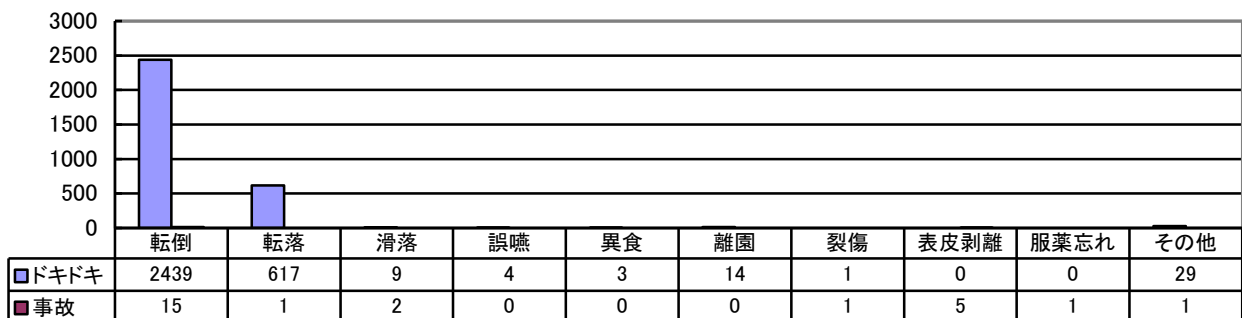
月別件数



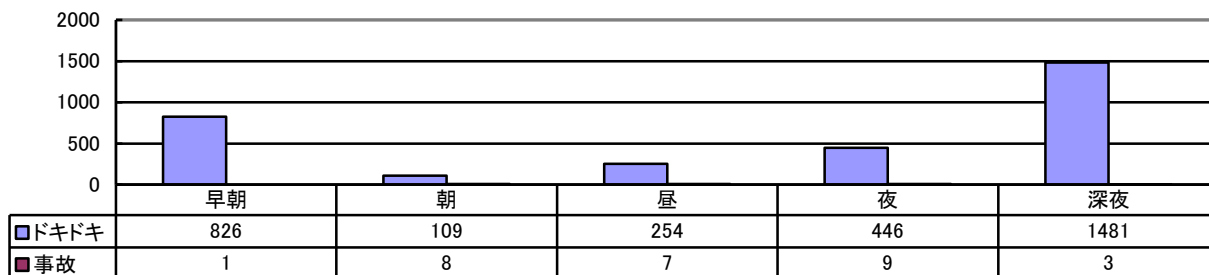
②発生場所別件数



③発生内容別件数



④時間帯別件数



⑤まとめ

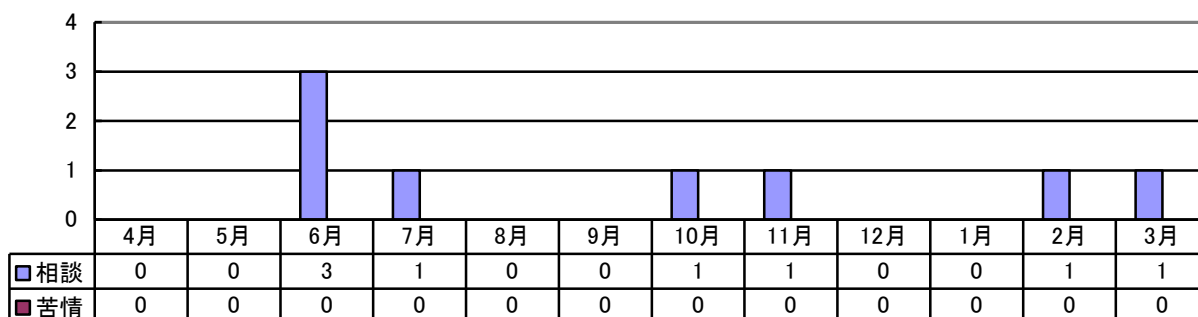
入居と比べ、車椅子などからの滑落事故が少なく、転倒の割合が多いことから、歩行可能者が多いことが分かる。付き添いや見守り必要者が同時に動き出した際に対応しきれていないケースが多いと推測される。転倒に対するドキドキは一定数の報告が出ているが、その他の事故に対するドキドキ件数が少ない。転倒以外に対する意識付けや注意力を高めていくことが次年度の課題といえる。

9. << 苦情・相談結果報告 >>

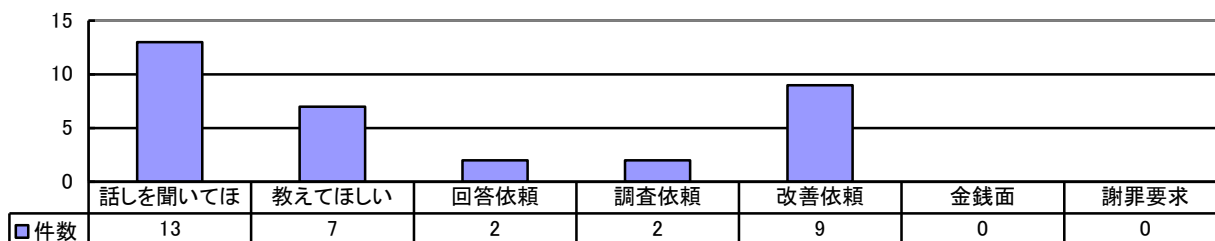
苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

報告件数	28年度			29年度		
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情
	8件	0件	8件	16件	0件	16件



要望分類



※複数回答しているため件数が多い。

○主な内容

ゲストご本人の勘違いやご家族の思い違いなど、ショートステイ独特のもの、職員の説明不足によるもの等が見られる。

○まとめ

しっかりとご自分の意思を伝えられる利用者の相談も多く、できるだけ対応するように努めた。リーダーが現場をしっかりと把握し指示をすることで、職員の対応も良く、リピート利用者が増えた。細やかなサービスまでとはいかないが、それに近いサービスを提供でき、良いご家族との関係を築いていたので、大きな苦情にはつながることはなかった。

10. 《総括》

開設から3年がたち、ショートステイのリピート利用者も増えてきている。これは、レクリエーションに力を入れていること、柔軟な対応や心のこもったサービスの提供、美味しいお食事の成果であると考えられる。また緊急ショートに対応できたのは、特養との情報の交換を密に行い連携することで最終的に目標の達成につながることができた。緊急ショート受け入れ時のマニュアルも作成し、対応できるものも複数名いるため、いつでも対応できる体制は整えることができた。引き続き利用者を楽しみながら利用して頂き、ご家族の介護負担軽減に努めていく。